

共立女子大学コレクション 井上ひさしの劇世界

平成23年5月26日(木)~7月4日(月)
9:30~17:30 (日曜・祝祭日は休館)※入場無料



共立女子大学
神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室
東京都千代田区一ツ橋2-2-1 TEL03-3237-2425

- ・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線
「神保町」駅下車A8出口から徒歩1分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口から徒歩3分

井上ひさしの劇世界

共立女子大学文芸学部劇芸術コースには、多くの方々や劇団から寄贈されたプログラム、ポスターが保存されています。中でも故藤木宏幸先生から贈られた、新劇のプログラムとポスターは、その数とともに、戦後日本演劇の貴重な資料として、高い価値を有しています。それらは、現在、卒業生の文芸OGネットワークによって、整理されつつあり、公開され研究に利用されることが期待されています。

今回、その中から、2010年に没した井上ひさし氏関係の資料を展示することを企画しました。旧藤木蔵資料の貴重さとともに、井上ひさし氏の現代文学界における孤高といってもよい高さを考える手がかりとなるでしょう。

井上ひさし氏は、1934年11月16日、山形県東置賜郡川西町(旧小松町)に誕生、上智大学卒業後、1958年、戯曲「うかうか三十、ちょろちょろ四十」で芸術祭脚本奨励賞を受賞します。台本を共同執筆したテレビ人形劇「ひょっこりひょうたん島」(1964年から放送)は、現在もなお語り伝えられるほどの高い内容と人気を得ました。1969年劇団テアトルエコー上演の「日本人のへそ」も演劇界で注目され、以降、「道元の冒険」(岸田戯曲賞・芸術選奨新人賞)「手鎖心中」(直木賞)「吉里吉里人」(読売文学賞)「太鼓たたいて笛ふいて」(毎日芸術賞・鶴屋南北戯曲賞)などの戯曲、小説の他、日本そのものを深く見つめた数多くの評論、エッセイを発表、戦後の芸術・文化界の先導となりました。1984年には劇団こまつ座を創設、自作の上演活動をおこないました。

なお今回の展示にあたり、劇団こまつ座のご了承の上、多大な御協力を頂戴いただきました。記して感謝いたします。

